

第17回長野市公共施設適正化検討委員会 議事要旨	
開催日時	平成28年10月26日(水) 10:00~11:40
場 所	長野市役所第一庁舎7階 第二委員会室
出席者	[委員] 松岡委員長、神田副委員長、太田委員、片山委員、清水委員、 中屋委員、西堀委員 [事務局(行政管理課)] 小川総務部長、丸山行政管理課長、 村上行政管理課長補佐兼公共施設マネジメント推進室長、 大塚行政管理課長補佐、渡辺行政管理課係長、竹内行政管理課主事 [事務局支援] 一般財団法人長野経済研究所：折井研究員
議 事	(1) 公共施設マネジメント推進について ・市民プール利用者アンケートについて ・長寿命化基本計画の素案について ・公共建築物保全マニュアルについて (2) その他 ・スパイラルの在り方検討について

【次 第】

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議 事

【審議事項】

- (1) 公共施設マネジメント推進について
  - ・市民プール利用者アンケートについて
  - ・長寿命化基本計画の素案について
  - ・公共建築物保全マニュアルについて
- (2) その他
  - ・スパイラルの在り方検討について

- 4 閉 会

【開 会】

委員長あいさつ

〔松岡委員長からあいさつ〕

議 事

(1) 公共施設マネジメント推進について

〔資料により、公共施設マネジメント推進について、事務局より説明〕

委 員 長    まずは資料1について、質問、意見又は要望等があればお願いしたい。

委 員        屋内プールについて、採光の工夫などは考えているか。屋内でもきちんと採光ができれば、屋外とそこまで違いはないのではないかと感じる。

事務局 アクアウィングについては、屋根が開閉できるようになっており、南長野運動公園のプールについては、側面の窓からの採光ということになる。大豆島に建設中の市民プールについては現在把握していないが、レジャープールで規模も大きいので、採光についても技術的な工夫を施すことになると承知している。

委員 今後市民プールの統廃合を考えていく中で、既存プールの築年数、既存プールと大豆島にできる新しい市民プールとの距離関係を考えていく必要がある。また、レジャープールというのは、25m プールや幼児用プールの他にこういった要素が加わるのか。

事務局 レジャープールについては、11Pにあるイメージ図を参照していただきたい。築年数や距離関係については、更新する場合の経費や利用者の推移等も踏まえた施設評価を行い、今後お示ししていきたいと考えている。屋外市民プールの集約化に向けた議論のきっかけの提言となるよう再配置計画にも盛り込んでいく。

委員 屋外プールの一番の難点は、試用期間が実質2ヶ月程度であり、そこにどれほどのお金をかけて更新等をしていくかという根本的な問題になる。市民が適切な判断ができるよう、分かりやすく説得力のある資料提供をお願いしたい。

委員長 長野市からシンクロのメダリストが誕生したが、競技性のあるものや民間のプールとの住み分けのようなものは考えているか。

事務局 市民プールとしては、アクアウィングがシンクロの練習拠点となっているため、競技性のあるものはアクアウィングということになる。

委員 市民プールを小・中学校の授業で使うことはできないのか。

事務局 信州新町や鬼無里では授業で使っているが、他の市民プールは使われていない。将来的には、学校プールとの連携や一体的な利用について検討していく。

委員 このアンケートは、プールを必要とする方が出している。統廃合反対という意見が100%でもおかしくない。自由記載に様々な意見があるが、この問題は既存の考え方ではなく、見方を変えて考えないといけない。プールとして使われない10ヶ月を、どのように有効利用できて、いくら経費が削減できるかというところまで考えないと、説得力のあるものにならない。

委員長 この委員会では公共施設の再配置や統廃合について考えているが、もう一方では、お金はかかってしまうが、施設の有効活用を図って、市民の生活を豊かにしたり活力あるまちづくりに役立てたりという考え方もある。

事務局 指針の中では、学校プールも含めた施設の在り方について記載しているが、これは千葉県さくら市の事例を参考にしている。さくら市では、今後学校プールの改修はせずに老朽化したら廃止をする。その代わりに民間のスイミングスクールに通わせるということをやっている。

委員長 これについては非常に難しい問題であるが、もうワンステップ上がった段階で再度議論を行いたい。続いて資料2についてはいかがか。

委員長 32Pにある千葉市の事例は非常にいい例である。長野市は面積が広く、多様な地形を持っているため、将来的にはGISによる一括管理を行っていかないといけない。お金がかかる話だが、先進地に学びながら職員もスキルアップして欲しい。

委員 長寿命化計画というのは改修周期を前提としたマニュアルだと考えているが、県内他市では、改修周期は考慮せずに壊れた建物から順次直していくという方向に舵を切ったと聞いている。コストマネジメントとすれば有効なやり方ではあるが、長野市でこういったやり方への議論はあったのか。

事務局 長野市としては、現在は事後保全で行っているが、なかなかうまくいかないという問題認識からスタートしている。全国の先進事例を参考にすることで、改修周期を設けて「事後保全」ではなく「予防保全」を行っていくということで庁内では意思統一をしてきている。ただ、全ての建物やインフラを長寿命化するのは難しく、重要路線は予防保全的に行うが、そうでないところは事後保全とするなど、お金を掛けるべきところに掛けていくというある程度の住み分けは必要であると考えている。

委員長 資料3についてはいかがか。

委員長 建物やインフラの保全については、職員のみならず市民から幅広く情報を得るために、一元的な情報提供窓口を設けて、その後どのような流れで対応するところまでいくかというフローチャートがあると分かりやすい。

委員 「はじめに」の部分にもあるが、長寿命化基本計画を策定し、その具体的な方策の一部としてこのマニュアルを作成したという位置づけをもう少し明確に示したほうがよい。施設の保全マニュアルを熟知する職員がいることは、災害時などのいざという時にとても役立つし心強い。

委員 住自協や区長などが、住民に対して公共施設についての要望や意見を聞く機会がある。その情報手順などについて、第1章でもう少し触れたほうがよい。あくまでもこのマニュアルは行政目線のものであるが、行政の透明性や市民サービスという面からも、市民目線での記載がもう少しあればよい。

事務局 いただいた意見については、参考にさせていただく。

## (2) その他について

〔資料により、スパイラルの在り方検討について、事務局より説明〕

【閉 会】